

重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道徳性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道徳教育
- ③ 特別活動
- ④ 総合的な学習の時間
- ⑤ 外国語活動(小学校)
- ⑥ 情報教育

(2) 施策・事業の実施状況

① 学習指導

各学校は、「学力向上推進計画」を立案し、自校の実態を分析するとともに学力向上の具体的な手立てを講じて、学習指導の工夫・改善に組織的に取り組んできた。

今年、県教委の学力向上5か年計画の最終年度であったが、本市は、小・中学校とも全ての教科で全国平均を上回った。また、小学校は、県平均と比較しても1～2ポイント上回った。一方、中学校は、国語B以外は県平均を下回り、特に数学Bについては県平均を3ポイント下回る結果であった。

2学期以降は、各学校で学力向上推進計画の取組指標と成果指標の見直しを行い、基礎・基本の定着を図るとともに、読解力や思考力を育成する学習の充実に取り組んだ。また、過去問題の適切な活用や学習支援サイト「学びの森」を通して、問題対応力の育成を図り、次年度の全国学力学習状況調査及び県学力診断調査等の結果につなげる指導を行った。

市教委は、日々の授業改善や指導力の向上を目指して、校内研修の充実に努めるように指導した。教職員の資質・能力の向上を目指して、市教研では、小学校9部会、中学校9部会の教科部会を編成し、全員がいずれかの部会に所属して研修を深めた。

部会の運営については、第1回研究集会を4月15日に開催し、各部会の研究主題、研究推進計画を策定した。教科部会の研究集会を6月29日と11月22日に、教科外部会の研究集会を10月26日に開催し、授業研究や実践報告等を行った。各部会ともテーマに迫る実践的な研修を行うことができ、確かな学力の定着と向上を目指した有意義な研修となった。また、8月8日には、高知市立高知特別支援学校の二宮啓先生を講師として招き、教育講演会を開催した。

また、教育活動指導員を、継続して4校（白浜小、神山小、千丈小、宮内小）に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間

小学校においては、道徳教育上学年と下学年、特別活動の部会を、中学校においては、道徳教育と特別活動の部会を編成し、教育研究推進に取り組んだ。総合的な学習の時間については、各校の主任による小・中合同部会を編成し研究に取り組んだ。

部会の運営については、第1回研究集会を4月14日に開催し、部会ごとの研究主題、研究推進計画を策定した。第2回研究集会を10月26日に開催し、研究授業や実践報告、講師を招いての研修等、各部会の主体性を生かした研究を行った。

- 道徳部会（小・下学年）・・・研究授業（宮内小学校）
- 道徳部会（小・上学年）・・・研究授業（喜須来小学校）
- 道徳部会（中学校）・・・研究授業（青石中学校）
- 特別活動（小学校）・・・研究授業（喜須来小学校）
- 特別活動（中学校）・・・実践報告（松柏中学校）
- 総合的な学習の時間（小・中合同）・・・講義（県総合教育センター）

③ 外国語活動(小学校)

8月18日、外国語指導助手コーディネーターを講師として、外国語活動実践について講義を行った。

市教委は、ALT3名と外国語指導助手コーディネーター1名を継続採用し、小学校の外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校4年生以下の外国語教育に継続して取り組んだ。

④ 情報・視聴覚教育

ICT機器を積極的に活用した授業が各校で行われた。8月3日に、業者を招いて各種ソフトの活用研修やタブレット端末による授業の可能性について研修を行った。

教職員の情報機器リテラシーが高まる一方で、情報モラルの向上やハザード対応力の強化は依然として課題である。各学校においては、児童生徒の啓発はもちろん、教職員や保護者の研修に積極的に取り組んだ。

また、ホームページを活用した積極的な情報発信については、全ての学校で、充実した内容になっている。

⑤ 郷土学習

小学校3・4年生は、昨年度改訂した郷土学習資料「八幡浜の暮らし」を活用して郷土学習を行った。

また、総合的な学習の時間において郷土の文化や産業、環境をテーマに探究的な学習に取り組んだ。

⑥ 研究事業等

次の学校が研究指定を受け、児童生徒の生きる力の育成のために、すばらしい教育活動を展開した。

- 発達障がい早期支援研究事業（神山小）
- 中学校武道地域連携事業（双岩中）

- 子どもの体力向上対策事業（松蔭小、八代中）
- N I E実践校（白浜小、松柏中～h29）
- 人権・同和教育訪問事業（神山幼）

【事務事業点検評価委員意見】

○ 「全国学力学習状況調査」の結果からも、小・中学校ともに全ての教科で全国の平均点を上回り、全国上位に位置するなど、本市の取組が着実に成果を上げている。さらに「分かる」・「考える」・「伸びる」授業の実践に力を注ぎ、児童生徒の学力の定着向上と教職員の指導力・授業力の向上に努めてほしい。

各教科部会は教職員の授業改善や指導力の向上につながり、それが児童生徒の確かな学力の定着と向上に結びついている。

- 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間については、各学校での取組を充実させることはもちろんのこと、市教研の各部会との連携を深め、心に響く道徳教育、集団活動を通した望ましい人間形成を育てる特別活動、自己の生き方を考えることができる総合的な学習の時間となるよう指導の充実を図ってほしい。
- 小学校5・6年生の外国語活動が、教科としての外国語となることへ対策としての研修等が推進されているが、さらに発展充実させていただきたい。
- I C T機器の活用については、学校間や指導者により、差が生じないように、研修の充実をお願いしたい。また、ホームページ・コラボノート等の活用を一層充実発展させてほしい。

【自己評価】

□ 学力向上推進計画に基づいた実践をP D C Aサイクルにのせ、継続して取り組むことが、教員一人一人の指導力の向上及び各学校の学力向上対策の質的向上につながっている。市教委としては、今後も各学校の特長を生かした組織的実践に適切に支援・指導を行いたい。

□ ご指摘のとおり、道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間については、地域の人材を積極的に活用し、心に響く道徳教育、集団活動を通した望ましい人間形成を目指す特別活動、探究的活動の充実を図り自己の生き方を考える総合的な学習の時間の実現に今後も努めていきたい。

また、新学習指導要領の実施に先立って平成30年度からスタートする特別の教科道徳に関する研修を充実させていきたい。

□ A L Tを効果的に活用した外国語活動の平準化を図り、新学習指導要領への移行をスムーズに行いたい。そのため、小学校では時数確保や指導者研修等の課題に積極的に取り組み、中学校においても円滑な接続が図れるよう研修の充実を図りたい。

□ I C T機器の活用については、指導者のリテラシーに一定の向上が図れてきた。今後は、有効な学習ソフトの導入を見据えた実践的研修の充実に取り組むたい。